

考えてみよう マンション管理フェスタ2021 分譲マンションの災害の備え

日時 令和3年9月5日(日) 場所 大阪市住まい情報センター3階ホール

講演 改めて自助から見直すマンション防災

兵庫県立大学環境人間学部 教授 木村 玲欧 氏



今、日本列島は地震の活動期に入ったと言われてます。また、地球温暖化の影響も重なり、いつ、どこで自然災害が発生してもおかしくありません。こうした状況から、近年、自分の命は自分で守るという防災の原点に帰る動きが広がっています。

一方では、新型コロナウイルス感染症の感染拡大による緊急事態宣言下で、制約を受けた日常生活を余儀なくされています。だからといって何もなくていいわけではありません。感染症対策をしながら災害対策を続けていく必要があります。そのための最近の災害の現状や、防災について、新しい知識を共有しましょう。

防災対策の担い手

防災対策について被災経験のない方に意見を求めると、ほぼすべての防災対策は公助ですべきだという考えが圧倒的多数を占めます。しかし、防災は自助(自分・家族)、共助(地域)、公助(行政・公共機関・公益事業体)が各々でしっかりと役割を果たさないと全体としてうまく機能しません。どれが欠けても、どれかだけでも十分ではありません。

想定内を増やす

ひとたび災害が起これば、想定外という言葉をよく聞きます。しかし、絶対的な想定外があるわけではありません。何もやっていなければ、知らなければ、経験がなければ、技術がなければ、起きることすべてが想定外になります。反対に、ある程度知っている、技術がある、経験があるとすれば、ほとんどのことを想定内に納めることができます。災害は、まれにしか起きませんが、1回でも起これば、命、生活を破壊してしまいます。それゆえ、いかに想定内を増やしていくかが重要です。

進化する防災グッズ

2011年の東日本大震災以降、防災グッズは非常に進化しました。

頭部を守るヘルメットは従来大きくてかさばることが欠点でしたが、現在では収納に便利な折りたたみヘルメットが流行っており、企業でも導入が進んでいます。自宅でも靴箱の中や、傘立ての横に置いたりできます。

2016年の熊本地震や2018年の大阪府北部地震では倒壊したブロック塀の下敷きになって人が亡くなりました。ブロック塀の重さは1個10kg強ですが、多くはまとまって倒壊します。ブロックが10個の塊になれば100kg強の重さです。これが頭上に落ちてきたら、老若男女を問わず無事ではられません。

防災の原点は、「自分の命は自分で守る」です。大阪府北部地震以降、改めて自助から見直そうという動きが広がっています。いちばん大切なことは、自分が生き残ることです。自分が生き残れるから大切な人や周りの人を助けることができるのです。お子様

用のヘルメットもあります。非常時に備え、身に着ける習慣をぜひつけましょう。

地震の揺れが引き起こす5つの「悪さ」と対策

①ものを「うごかす」悪さ

- ◆耐震粘着マット(床固定)を貼って固定する
- ダイニングテーブルやベッド、テレビ台などを固定する
- ◆キャスターロック+チェーンベルトや、ベルトを付ける
- コピー機などの背面側上部・下部などを壁に固定する

※注意点

- ⇒ しっかり固定するには機器の取付箇所、機器全体(上下接合部)の強度が必要となる
- ⇒ 対応方法がメーカーや機種ごとに変わる場合があるため、販売店等に相談して確認する

②ものを「とばす」悪さ

- ◆ラッチを取り付けて飛出しを防ぐ
- 食器棚、冷蔵庫、キャビネット類などの開き戸・引出しの収納物の飛出しを防ぐ
- ⇒ 飛出し防止ゴムや滑り防止布を敷くのも効果的
- ◆ストラップ式や、耐震粘着マットを貼って固定する
- テレビやパソコン、レンジを固定する
- ⇒ 電子機器類はストラップ式で固定する

③ものを「たおす」悪さ

- ◆L字金具(壁固定)を取り付けて、転倒を防止する
- たんす、食器棚、冷蔵庫などを固定する
- ⇒ 壁の固定位置は、柱や間柱・胴縁など丈夫な部分とする
- ◆平金具(連結)を取り付ける
- キャビネット、タンス、ガラス戸棚など隣や背中合わせの家具と連結する
- ⇒ 段重ねの家具や、ハカマも連結することが必要となる

④ものを「おとす」悪さ

- ◆ヒートン+チェーン(天井固定)を取り付けて固定する
- 照明、額などを固定する
- ⇒ 強い力がかかるため、固定点の強度が重要となる

⑤ものが「われる」悪さ

- ◆飛散防止フィルムを張る
- ガラス窓やガラス戸棚、食器棚などの飛散を防止する
- ⇒ はじめに家具自体を固定する
- ⇒ ガラス部分全体に飛散防止フィルムを貼る

家庭内に「安全空間」を作る

寝室にはなるべく家具を置かないことが原則ですが、日本の住宅事情を考えれば、家具を置かない部屋をいくつもつくることは現実的ではありません。対策として、寝るスペースに平行してタンスや本棚を配置して、倒れてきたとしても寝ている部分にかからなくするなど、家具のレイアウトの対策をしておくことは大切です。少しの工夫で結果は大きく変わります。生き残るための努力を先に行いましょう。

インフラが使えないときの備え

2018年の北海道胆振東部地震では北海道の一地域の地震にもかかわらず、北海道内ほぼ全域で大規模停電が起こりました。

つかない信号に代わって警察官が交通整理を行ない、お店が閉じられたうえ、ATMも止まってしまってお金が使えず品物が買えなくなったり、冷蔵庫の中のもの腐ってしまったり、携帯電話のバッテリーの充電ができず使えなくなったなど、電気がいかに私たちの生活に根付いているのかを再認識させられました。電気だけではなく、ガスが止まればお湯も沸かせません。ソーラーバッテリーやポータブル電源、カセットコンロの備えは大切です。

また、現金を使わないキャッシュレス決済や電子マネーは災害に非常に弱いです。非常用電源の確保など対策を急ぐ必要がありますが、自分でできることとして、現金、特に使い勝手の良い硬貨や千円札などを平時から手元に準備しておくことと安心です。

コロナ禍の災害対策

●在宅避難

新型コロナウイルス感染症などの感染症対策も考えなくてはなりません。密を避ける必要から避難所の定員は従来の約1/3、半分くらいに制限されており、大阪市内でも現在は住民全員を受け入れられる避難所を用意できていません。

そこで在宅避難がキーワードになります。もちろん、浸水や土砂崩れの危険がないなど、安全であることが絶対条件です。地震では倒壊はもちろん、窓ガラスが割れたり、タンスが倒れたり、割れた食器が散乱したりというような被害そのものを抑えることが大切です。

在宅避難では、最低3日間、大規模災害ではできれば1週間分の備蓄が必要とされています。

- 食べ物、飲み物系
- 生活用品系(カセットコンロ、カセットボンベなど)
- 災害用備蓄品(簡易トイレ、手回し充電式ラジオなど)
- 感染症用備蓄品(マスク、アルコール消毒液、口腔ケアグッズなど)

これらがどれくらい自宅に備えられているかをチェックするだけでも立派な災害対策につながります。

●ローリングストック

災害用非常食の備えはとても大切です。レトルト食品、乾麺、缶詰など、普段から日持ちのする食べられた食べ物を備蓄しておき、賞味期限が近いものから食して、その分を買い足すローリングストック、またはランニング(消費)ストックを心がけたいです。

●災害時のトイレ問題

災害発生時の断水で水洗トイレの機能は停止します。集合住宅の場合、上階で不用意に流してしまった汚水が1階住戸のトイレで溢れ出す事例が非常に増えています。災害が起きたときは断水や停電が起きていなかったとしても、上下水道、配管などに被害がないことを確認できるまではトイレの使用は厳禁です。

トイレは衛生面の問題や健康被害、関連死につながった事例があります。携帯トイレや簡易トイレを常備して対策しましょう。

<段ボールトイレの概要>

- 段ボール、新聞紙、テープを使って作成する
- ワークショップや訓練等で作成を体験することは効果的である

「非常持出袋」の注意点

非常持出袋は、避難所等で1泊程度を過ごす必要品を入れておく袋として、取り出しやすい場所や動線に置くようにしましょう。以下がよくみられる勘違い現象です。

- 1.旅行かばん現象
 - 何もかも詰め込んでいて重くて持ち運べない。
 - ⇒ 「持ち出す物」と「自宅に備え置くほうがいい物」の区別がない
- 2.タンスの肥やし現象
 - 「押入れの奥」にしまい込んで出せない。
 - 「普段使わない物」なので使いづらい、使い方が分からない

安全・安心は自分たちで作るもの!

危機は「その場しのぎ」では対応できません。災害に対して普段何もしていない、何も考えていない、何も知らない人が、実際に被災したときに上手にいったケースはほとんどありません。これまでの知恵や教訓を学び、自分たちの弱いところ、組織・地域・家で起こりうる問題を知り、作成した計画を訓練などで実現させて、危機への対応力・応用力を上げていきましょう。学習は私たちを裏切りません。

